



現在検討中となっている川東ゲートボール場

として、川東ゲートボール場を来年度からの休止に向け検討するとしている。町長に検討内容と今後について伺う。

高薄町長

昨年の5月に方針を決め、類似施設や利用者動向を検討内容とし、十数回の議論を経て、11月に平成20年度は休止の検討をしていこうということに至った。ゲートボール人口が減っていくという中で、財政的なこと、将来的にどうなるのかということも含めて、地域の方々と利用者と一緒に協議や意見交換の場を持ちたい。

## 退職不補充による職員120名体制

原 紀夫議員

平成29年度には120名にもっていきたくしていきながら、幹部職員及び一般職員の共通認識となっていくか。

自然退職により平成28年度には目標数に近づくと思われるが、この間、職員不補充が長期間にわたると空洞化を生じるため対策を伺う。

また、現行グループ制による職務執行は120名体制に必要不可欠と思うが、一部不協和音も聞かれる。職員不補充を継続し、120名体制に至る中で各課業務をどのように改善し、職員負担を軽減させるか考えを伺う。

高薄町長

平成29年度をめぐって職員数の目標を立てたが、この状況は行財政改革推進本部やそれぞれ課の中

でも議論している。同じ意識を持って将来を考えていくことで十分に認識されている。

地方分権、税源移譲の中で、今後どのような状況になるのかということも考え、このまま不補充では階層の離れや実践面で若い人が必要などところも出てくるため、来年度は2名ほど採用したい。更に計画的に採用しながら平成29年度までいきたい。

どのように改善していくかということだが、1点目としては、組織機構等検討委員会が現状の把握をしっかりと行う。2点目は、多様化する行政課題に対応するためにどういう組織が望ましいか考え、施設運営の集約が可能か、指定管理者の導入は可能か、グループ制を含めた内部体制がどうあるべきか、これらも併せて検討していく。

また、組織の活性化、人材の育成、人事考課昇任制度、降格制度をどうしていくか、民間で行うことがで

きる収納関係も経費や手数料の問題を考えて検討していかなければならない。

## 公共施設及び小中学校の震災対策

原 紀夫議員

地震その他の災害が発生した場合、役場庁舎は指令本部となる最重要施設である。役場庁舎、文化センター、体育館等大型施設の耐震強度及び震災対策は。

また、小中学校の耐震化については本年度予算に計上され、二次診断、三次診断が実施されるが、国の費用負担の見直し議論を踏まえ、一連の耐震化を早める考えはないか。

町民避難場所や防災マップの作成等を急ぎ、早期に全町民に徹底を図るべきと考えらるがいかがか。

高薄町長

大型施設の震災対策は、

耐震改修促進法で当該市

町村の区域内の建築物の耐震診断及び耐震改修の促進を図るための計画を定めるよう努めるとなっており、計画的な耐震改修が求められる。計画を策定するかどうかは、現在のところ、町の財政状況からみて即座に取り組めるような状況ではなく、大きな課題である。

御影小学校を除く3校

は、旧耐震基準で建設されているので耐震診断が必要であるが、平成17年から優先度調査を行い、年次的に取り組みをしている。一次、二次診断と取り組んでいるので、三次診断を順次

やっていきたい。

防災マップの作成は、平成18年度に「清水町洪水ハザードマップ」を作成しており、現在は、地震防災の実施に関するハザードマップの作成を進めている。



平成18年度に作成された清水町洪水ハザードマップ

## そのほかの一般質問

妻鳥公一議員

◆ 後期高齢者医療制度

原 紀夫議員

◆ 森林施業実施簿の管理